

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	天龍峡再生道路整備事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	建設部	課等名	土木課		包含する細々目	1	8	2	3	12	14	300,000
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり											
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	必要	関連計画条列等		天龍峡活性化プログラム 名勝天龍峡保存管理計画				
		事業期間	17	年度～	23	年度						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	・天龍峡周辺の住民及び天龍峡を訪れる観光客 ・三遠南信自動車道(仮)天龍峡ICから天龍峡駅を経て治水区域を結ぶ道路	路線延長:m	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			1100	1100		
	・天龍峡を訪れる観光客の数:人(統計上1年前のデータ)		現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			177800			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
・わかりやすく、安全に移動ができる ・大型バスがスムーズに交互通行できる道路が整う	大型バスがスムーズに交互通行できるようになった(幅員7.0m以上が確保できた)道路の延長	18目標	0	最終目標	1100	23
		18実績	0	19目標	88.3	↑
		23目標	1100	23実績		最終目標達成年度
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	平成19年度の三遠南信自動車道(仮)天龍峡ICの供用開始に向けて、ICから天龍峡駅を経て治水区域を結ぶ、「天龍峡活性化プログラム」に整合した道路整備を進める。 ・市道川路220号線 道路延長=1,100m 道路幅員=7.0m 平成19年度から地方道路交付金事業で実施	18年度の実績 道路設計・用地測量 用地買収・物件補償 交差点協議・JR設計協議・文化庁協議	工事延長:m	0
	19年度計画	用地買収・物件補償 工事施工 JR設計協議・河川協議・埋蔵文化財調査	工事延長:m	10

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		165,000
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債	231,572	128,250
	その他		
一般財源	12,188	6,750	
事業費計(A)	243,760	300,000	
人件費	正規職員所要時間	18年度 480	19年度 530
	臨時職員等所要時間	40	40
	人件費計(B)	1,759	1,938
	トータルコストA+B	245,519	301,938

特定財源内訳や補足事項	合併特例債(95%) 地方道路交付金(55%)
-------------	----------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	交通の利便性が向上し、天龍峡を訪れる観光客が増加する。 施策の目的 事業者等が出荷額等を高める活動をする 基本事業の目的 観光拠点の魅力度・誘客力の向上と創出	天龍峡を訪れる観光客の増加数:人 施策の成果指標 既存事業者の消費額(観光) 飯田下伊那	現状値	142	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	159
	1店舗あたりの売上高(小売業)・千円 飯田市		現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	11030	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
観光地としての天龍峡の衰退が著しい中、三遠南信自動車道の開通をひかえて、「天龍峡活性化プログラム」の策定が進められている。また、上村・南信濃村の合併に伴い三遠南信自動車道を利用した飯田市の観光開発を考える中、ICから天竜峡を連絡する道路の開設が必要となった。	天龍峡活性化プログラムによって、天龍峡の将来のあり方が定まり、天龍峡の再生が進められる。(観光課) 名勝天龍峡の保存管理計画が策定され、名勝区域及びその周辺地域の保存の方向性が定まる。(観光課・教育委員会) 平成19年度の三遠南信自動車道(仮)天龍峡ICの供用開始により、同ICを利用する車両数は13000台/日が見込まれており、観光バスなど大型車両の通行が予想される。	天龍峡の観光客の減少は著しく、早急な対策が望まれている。また、川路自治会から利便性が高まることから市道開設の要望書が提出され、強く要望されている。

## 【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	(評価) 結びつく (その理由)		有効性評価	(評価) 余地がない (その理由)	
	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	三遠南信自動車道が開通すると、天龍峡ICから本路線を利用し天龍峡を訪れる観光客の増加が見込まれる。天龍峡を訪れる観光客がわかりやすく、安全に移動ができるための道路が整うことは、誘客力の向上に結びつく。		成果をさらに向上させる余地はありますか？	道路整備の年次計画に基づき設定した。「名勝天龍峡保存管理計画」が認められ、用地買収ができることで予定通りの整備が可能。
対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 三遠南信自動車道(仮)天龍峡ICから天竜峡駅を経て治水区域を結ぶ、本路線の利用者は、天龍峡を訪れる観光客及び地区住民が主となる。	廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由) 天龍峡再生に影響が出る。		
意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由) 現在、天龍峡へ大型バスがスムーズに通れないため、本路線の整備が必要となった。観光客がわかりやすく、安全に移動ができるための道路が整うことを意図とした。	他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由) この路線と同じ地域の道路整備などの計画はない。既存道路の一部を利用しながら整備を進める。		
市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由) 市道の整備であり、市として関与することは当然。また天龍峡は飯田下伊那地域の観光拠点として重要であるためその誘客力の向上についても市として関与する必要がある。	効率性評価 成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由) 名勝天龍峡の環境に配慮し、極力コンクリートの擁壁類によらず盛土工法により可能である。		
		公平性評価 受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由) 不特定多数の市民や観光客が通行する市道の整備であるため、受益者が特定できない。		

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	平成19年度から地方道路交付金事業で実施
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がある	(2) 必要性な場合の実施事由	2- 新規の事業を実施することが決定したとき
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	天龍峡関連事業と深い関わりを持つ事業であり、この事業の進捗状況が事業全体への影響があるのではないかと。
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	